

4.17津田沼支部への破壊襲撃糾弾!

青竹、バールで武装し、石を投げ、暴行の限りを尽した本部・暴力集団!

四月十七日、十一時過ぎに津田沼支部において、暴力集団は一五〇名をもって居合せた一〇名余の組合員に対しあらん限りの重傷者が出るほどの暴力をふるい、窓ガラス、ドア、ロッカーなどを手当たり次第ブチ壊し、支部事務所のガラスを割り、鍵を破壊して内部の書類その他を盗み出し、迎えに来た機動隊に守られ、二時間後に引きあげた。われわれはこの卑劣な襲撃を怒りをこめて弾劾するとともに、ますます団結を固め、決して屈することなく、八〇年代へ向けた正しい労働運動の確立、動労大改革へ向けて、さらに前進する決意である。労働者・人民の心を、暴力で制することは絶対できないのだということを、動労千葉の隆々たる前進と発展によって、近い将来、暴力集団は必ず思い知らされるであろう。

支部長重症!

十一時過ぎに私服で津田沼駅へ現れた暴力集団はそのまま津田沼支部へ直行し、ナツパ服に着替え、たばねてきた五〇本余の青竹を持ち、袋にコブシ大の石を詰め、バールやベンチなどの一式を携えて武装し、五〇名の青竹部隊を先頭に突きかかってきたのである。

そして、ドア、窓ガラスを青竹で突き破り、石を投げて建物一階に侵入し、二階に通じる階段で阻止しようとする組合員に非常口から進入した一団が横から突きかかり、乗務員詰所で暴行の限りをつくし、さらに三階へ通じる階段で抵抗する組合員に対して青竹で突きまくりながら講習室まで押し込み、取り囲んで、頭部も何も見境いなく青竹でなぐり、倒れた者を靴でけとばし、重傷を負わせたのである。

この中で片岡支部長は頭蓋骨折の重傷で絶対安静となったのをはじめ、多くの負傷者が発生し、乗務員詰所の破壊と混乱によって、乗務員の出勤、点呼が不可能となったため、総武、中央線の電車がストップし、夕方のラッシュ時には八〇本余の運休によって列車ダイヤが大巾に乱れるなどの状況になり、マスコミでも報道される事態となったのである。

全ての責任は動労中央にある!

われわれはこの事態の全ての責任が動労中央本部にあることをはっきりと確認するものである。本部・神保を先頭とした武装・暴力集団を送り込み、動労千葉の組合員に重傷を負わせ、組合事務所や庁舎を破壊し、窃盗を働くという本部・暴力集団、これが労働組合のやることなのか。

学生を先頭に立てた襲撃

われわれはこの4・17津田沼支部襲撃が革マル学生部隊を先頭に立てて行われたことを暴露しなければならぬ。

投石に対し、ロッカーなどをタテにする支部組合員に対し、青竹で突きかかり、ドアを破って常に先頭に立つ部分を、われわれは明らかに学生部隊であると認識する。彼等は二階・乗務員詰所に侵入した時点で後部の部隊と先頭を交代し、国労・動労の組合員とは絶対に口を利こうとせず、三階・講習室へ侵入した際は、支部の役員、活動家の顔も名前も全く識別できず、随行した大久保(前・本部青年部長)、徳永(前・関東青年部長)等が名前を知らせると、はじめて役員・活動家と一般組合員の区別がついて暴行を開始するという実態だったのである。

青竹を内ゲバ部隊のように使いこなし突入することのできる動労組合員が存在するのか。そういう部分が、津田沼支部長をはじめとする役員、活動家の顔も名前も知らず、津田沼支部組合員も相手の顔も名前も知らないということがありうるのか。

動労中央本部は、この事態を説明すべきである。この暴力集団に本部役員・神保、さらには大久保、徳永などが加わり、直接暴力をふるったことの責任は必ず問われなければならない。

4・18津田沼支部結成大会を必ず成功させる!

津田沼支部はかけつけた幕張、千葉運転区両支部組合員も含め、約八〇名で十四時より乗務員詰所で集会を開催し、この暴力を絶対許さず、十八日に予定されている支部結成大会を圧倒的に成功させてゆくことを確認した。